

《投稿》

里山ウォーキング（常陸太田市）

仲間達（里山ウォーキングクラブ）と、旧里美村の薄葉沢、生田沢滝巡りに行ってきました。乙戸沼を7時半に出発し目的地の塩の草、薄葉沢入口へ。薄曇りの天気ではハイキングには最高のコンディションに恵まれました。入口でそれぞれ準備を整え、体操で体をほぐして出発です。

沢は昨日の雨で水量が多く、溪流の音に心癒されながらしばらく登ると、塩の草の滝、薬研の滝、薄葉沢の滝、早瀬の滝、滑りの滝、肘曲がりの滝と滝の連続。薄葉沢の大岸壁も見事です。笠石の滝で滝群とお別れすると、目の前が大きく開け、谷津田が広がります。山あいの道をしばらく歩いて笠石の集落に入ります。民家の右手に生田沢の大滝の標識があり、ここから橋を渡れば峠への入り口です。橋のたもとのベンチで一休みし、峠への登りに備えます。峠までの山道はだらだらと続く長い上り坂で結構きつく、本日の一番の難所。

からはだらだらの下り坂。沢を越えると右に大石、左の小広い場所はザッキ小屋跡。そこからは森林の中を縫うように流れる小さな沢を何度も渡り、時には沢を歩いて、流れの段差が大きくなると間もなく小滝の上部。左へ130分登ると三筋に流れる生田の大滝です。皆思い思いの場所へ座り、滝をながめながら遅い昼食をとりました。近々この場所で生田の滝コンサートが開かれるとのこと。

帰りは林道をぬけ、生田十字路でバスに乗り、里美の美肌の湯につかっから帰途につきました。今回のハイキングは滝川渓谷のミニ版のようで、ミニ渓谷と滝群、森林浴とで満足の一日でした。

パートナーの皆さんも私たちと一緒に里山ウォーキングを楽しんでみませんか。奇数月の第一日曜日に実施しております。

(イベント・記録G 峯)



《投稿》

ケチとエコ

7月に「洞爺湖サミット」が開催され、地球温暖化問題が中心議題になった。新聞やテレビなども環境問題を大きく取り上げるようになり、人々の関心も高くなってい。とはいえ「明日のエコでは間に合わない」とか、「知っているからやっている」というようなキャッチフレーズがあるように、認識していてもなかなか行動に移せない人も多いのではないかな。

かくいう私もその部類だ。こまめに電気を消す、水を流し放しにしない、物を無駄に捨てないなど、日常の細々としたケチくさいと思われるようなことが「エコ」になるのだ。「もったいない」という言葉は世界語になりつつある。大消費時代は終わりを告げ、人々はライフスタイルの変更を求められている。物価はどんどん上がり節約生活も見直されてきた。

皆さん、日本独特の「もったいない」精神を大切にしておおいに「ケチ」になろうではないか。生活や環境を考え「ケチ」になることが、今や「エコ」につながる時代なのだ。

(交流サロン 石橋)

エコキュート

この3月オール電化住宅にリホームした。といっても給湯器（エコキュート）とコンロを取り替えただけで、ユカダンなどの快適設備を新設したわけではない。動機はセールスマンの言う燃料費用の節約。

本当に節約できたのか。4月から6月まで3ヶ月間のエコ（マネー）度を概算で検証してみた。投資額は約130万円。

従来の月当たりの燃料費は、電気代12,000円、ガス代4,000円、灯油代4,000円で計約20,000円。これに対し4月から6月までの燃料費は電気代のみで月平均7,500円。月当たり約12,000円の節約という計算だ。3人家族の総エネルギー使用量に大した変化は考えられないから、かなりのエコ（マネー）度ということになる。

ガスや石油の代わりに電気を消費しているにすぎないから真のエコとはいいい難いが、垂れ流しの深夜電力をすくっているとせば、心の安らぎにはなる。

(稲葉)

シジミによる水質浄化の実験

2008年5月4日(日)ふと新聞の日曜版「食べものがたり」という記事が目についた。内容は、島根県松江の宍道湖周辺の観光案内ということで、宍道湖を遊覧船で見学するツアーで、特産のシジミ漁も見られ船内では環境団体のスタッフがシジミの種類、砂抜き方法を解説すると共にシジミによる水質実験も行っている。

植物性プランクトンで緑色になった水槽にシジミをいれ、その浄化能力を見せるのである。クルーズが終わる頃にはほぼ、透明になっているそうである。ちなみにシジミ1g当りの水質浄化能力は1時間に170ccで、宍道湖全体のシジミで1日に約1億3000万トンの水を浄化するという。

私も、研修グループのメンバーとして水質分析に携わっている関係上早速、妻にシジミ購入を依頼、霞ヶ浦の水を採水し実験を行った。宍道湖のシジミ浄化能力を参考にシジミの量を4倍の4g、植物プランクトン一杯の緑色した霞ヶ浦の水(800cc)に入れ、その経過をワクワクしながら見てきた。単純計算ならば、1時間で680g/800gの85%浄化が期待できるのだが、42時間経過した水の状態を見ても残念ながら、まだ顕著な変化が出ていない。シジミの状態は白い舌を出し活発に浄化してくれているように見えるのだが、増えすぎた霞ヶ浦の植物プランクトンの処理に手を焼いているのかも知れない。引き続き観察して行きたい。

多くの人々の地道な水質浄化活動とはうらはらに、一度こわれた自然環境を修復するには、多くの時間と手間がかかる事を改めて痛感したささやかな試みであった。(尾形)

第26回霞ヶ浦入門講座に参加して

霞ヶ浦入門講座は1~2ヶ月に1回位の割合で開催され、霞ヶ浦の水質、地質、水利用や生き物等々幅広いテーマについて易しく学ぶことができる。時には現地に出向いて水に関する各種施設の見学をとおして楽しみ感覚で理解を深めることができる。私も時間が許せばイベント・記録Gの一員や一般として参加している。

今回は現地講座で「霞ヶ浦用水地域に行く〜つくし湖・小貝川・砂沼周辺〜」と題して行われた。霞ヶ浦の水を筑波山の中腹(56m)にある筑波トンネルまで押し上げて、いったんつくし湖に貯留し、そこから水不足によって悩まされてきた県西南部地区に送る大変ロマンを感じさせる水路で、かすみがうら市牛渡の取水場・送水設備、筑波トンネルの出口の桜川市椎尾にある調整池(つくし湖)それに小貝川を渡す水管橋等の見学や説明を受けた。

この地域は雨が少なく、それに小貝川・鬼怒川の下流域に位置するため昔から水確保は大変苦労してきたところで、霞ヶ浦の水源をえることで現在安定的な農業を可能にし、又、地域住民の生活用水やビール工場の工業用水にも利用されている。

あいにくの曇り空であったが、多くの方が参加されて、水の大切さを改めて認識した1日であったと思う。これまでの先人たちの苦労や努力に思いをはせると、我々も霞ヶ浦を汚さないようにして将来に残していきたいものだ。

(平江)

写真：小貝川の水
管橋(山中
章氏撮影)



平成の名水百選

6月の初めに環境省より「平成の名水百選」が発表された。茨城県では日立市にある「泉が森湧水及びイトヨの里泉が森公園」が選ばれている。この公園は、水温が一定の限られた遊水地にしか生息しない希少な淡水魚イトヨが生息しており、このイトヨの生息する自然環境の保護を目的として住民と市の協力により整備された親水公園です。今回の選考では水質・水量



だけでなく、地域の生活に溶け込んでいる清澄な水や、水環境の中で、特に地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われていることを前提に選ばれているそうです。

以前は多くの場所で地下水が湧き、水路をめぐる里では人も魚も草も鳥もいきいきと活動していました。しかし環境の変動により絶滅を危ぶまれる動植物の種が増えています。

水はあらゆる生命にとって不可欠なものです。ゆたかな自然環境を確保し、次世代に残す努力が望まれます。

(安川)

鳥取・「大山（だいせん）」登山記

5月の連休に、所属する登山グループ（穂高倶楽部：代表 堀 衛氏）の企画で「大山登山」に併せて鳥取県の史跡探訪と砂丘観光の旅に行ってきました。

往きは、東京・品川から夜行急行バスを利用。東京から10時間余り、朝7時前米子駅前に到着。ここからチャーターバスで大山北麓の登山基地「大山寺」に向かう。ホテルで朝食の後、8時「大山寺登山口」から夏山登山道に登る。

六合目まではブナ林の中をゆっくり登る（ここが森林限界）。避難小屋で一休みの後、八合目までは火山砂礫のきつい登りが続く。八合目を過ぎるとやや緩やかな登りとなるが、平成12年10月の鳥取西部地震で登山道が被害を受け木道が敷かれた。木道での単純な同一傾斜の登りは意外とつらい。

弥山（みせん）頂上（TP1709m）に着いたときは完全にグロッキー状態。昼食の“おにぎり”もなかなか喉を通らず、一個食べるのがやっと。持参した水は飲み干し、頂上小屋で500ml 550円のペットボトルで喉の渴きを潤す始末。登山可能なのはここまでで、最高地点の剣が峰（TP 1729m）への稜線は崩壊が激しく立ち入り禁止となっている。下山は、行者谷コース（昔の信徒登山道）を元谷経由で大山寺に帰着した。

「大山」は中国地方の最高峰で“大山隠岐国立公園”に属した東西約35km、南北約30kmほどの巨大な山塊で、白山火山帯につながるおよそ100万年前に噴火を始めた火山であるが、1万数千年前に剣が峰や弥山、三鈷峰（TP1516m）などの溶岩ドームが連なる日本最大の溶岩円頂丘を作って火山活動を休止している。老齢期（解体期）にある山体は崩壊が著しく、行者谷コースを下山中にも時々ドドツ、と云う音とともに土煙を上げている岸壁の崩落が見られた。関西地方の登山者の間では「早く登らないと山がなくなってしまうよ」などの冗談も聞かれるほど、今は文字通り目に見える速さで山体侵食が進んでいるようである。

（有吉）



大山北壁をバックに!! 元谷にて

技

はマ・ル・ギ

皆さんご存知のあれですよ。そう、一時流行した㊦と書いて（国税庁などの）査察官、
㊧と書いて金持ち、㊨と書いて貧乏をさす略語で、私達昔仲間の間で使われていた造語です。

でも私たちの㊩はちょっと違います。㊩と書くとは技術あるいは技術者の事といえ
そうですが、そう早合点しないで下さい。結構使える汎用性のある造語です
から。

もう、一昔余り前のことになりますが、私もゴルフを少々嗜んでいる時代がありました。コースへ出るようになってから、ゴルフが紳士のお遊びであることを痛感するようになり、仲々味わいのあるものだということが判ってきました。ところが、プレーを重ねていくうちに、ひどい人もいるものだという事も感じるようになりました。

例を二、三挙げると、他の人がまだ遠くの方から寄せようとする前に、勝手にパットをやってしまう人、人が打とうと精神を集中させている時に、脇で大声で騒いでいる人、他人のパットラインを踏んで、文句を言われると「少し位、良いじゃないか」と反論する人等々技術以前、さらにルール以前のマナーが、全くできていない人がいたということです。

それでは、そろそろ㊩の読み方を説明しましょう。これはマ・ル・ギと分解して、まず第一にマナーであり、次にルールであり、これがあって初めて技術あり、と読むのです。

碁や将棋、麻雀などのゲーム、あるいは仕事の面でも使えると思います。特許は取っていません。どうぞ勝手に使ってやってください。

（浅野）



県政へご意見を

皆様はパートナーをしていて「霞ヶ浦に対する県の施策」にはご意見やご提案をお持ちのことと思います。霞ヶ浦と県北山林保全のため環境税ができ、5年間の成果を上げねばなりません。県では県民の意見や提案を歓迎しているようなので、この際意見をまとめて提案してみませんか。

平成20年7月1日からパートナー担当者は以下のとおりとなります。

担当業務区分	新担当者	前担当者
パートナー活動の連絡調整等	主事 内田 裕介	主査 田島 邦彦
パートナー活動の催事の企画等	囑託 松井 幹美	主査 田島 邦彦

平成20年度パートナー新規登録者の紹介

順番	氏名	所属グループ名
1	池松 峰男	①研修, ②生き物(魚プロジェクト)
2	江川 美好	①生き物(植物プロジェクト)
3	落合 優子	①生き物(植物プロジェクト), ②イベント・記録
4	須藤 和良	①図書, ②イベント・記録
5	平野 要	①イベント・記録, ②生き物(魚プロジェクト)
6	萩野谷 正気	①図書, ②生き物(魚類・植物プロジェクト)
7	井上 秀毅	①図書, ②生き物(植物プロジェクト)
8	高橋 三保子	①研修, ②生き物(魚類プロジェクト)

※平成20年6月10日現在でパートナー登録者数は87名となりました。

今年度、2年任期の県政モニターになりました。メールやお手紙を下さるようお願いいたします。

〒300-0848

土浦市西根西 1-7-6

吉村喜男

Yoshio_yoshimura@yahoo.co.jp



『パートナー香澄』原稿募集

「パートナー香澄」の原稿を募集しています。特にテーマは設けません。

パートナーご自身のプロフィールとセンターでの活動体験記や身の回りの話題など何でも結構です。写真の添付も歓迎します。

次号は10月末発行予定で、原稿締め切りは9月30日です。パートナー室パートナー香澄メールボックスにお入れ下さい。

編集委員

尾形 孝彦
浅野 明宏
有吉 潔
大島 寿夫
栗原 知彦
平江 俊之
安川 敏行
稲葉 寛

(小島五男作)

草萌えてミミズ這うらしモグラ道
少しだけ残しておくれ青菜の虫よ

香澄川柳